

# 22J-am11

多職種連携における医療・介護従事者のコミュニケーション能力向上のためのアンガーマネジメント研修

○高橋 直子<sup>1,2,3</sup>, 松野 純男<sup>4</sup>, 伊藤 栄次<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>立命館大薬, <sup>2</sup>奈良女大学院, <sup>3</sup> (一社) 日本アンガーマネジメント協会, <sup>4</sup>近畿大薬)

【目的】医療ニーズが多様化する医療・介護従事者にとって、患者や多職種との医療コミュニケーション能力向上が求められている。そこで、コミュニケーションをとる上でネガティブな影響を及ぼす『怒りの感情』の対処法を学び、コミュニケーション能力を向上させるために、感情表現の心理トレーニングであるアンガーマネジメント (以下、AM) を推進してきた実績を報告する。

【方法】2018年9月17日、日本プライマリ・ケア連合学会秋季セミナーにおいて、医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネージャーを対象として、『日常業務に影響を及ぼす怒り感情の表出に潜在する感情と対処術』をテーマに、2時間のAM研修を実施した。AMプログラムは、米国AM協会 (NAMA) の日本支部である、(一社) 日本AM協会シニアファシリテーター™が講師を務めた。

【結果】参加者32名が6グループにわかれ、『日常業務に影響を及ぼす怒りの感情』を抽出し、『怒りの感情』の数値化および相互評価した際に、同等の数値とならなかった人の間では、『こうあるべきという拘り』に差が見られた。さらに、『潜在する感情』と『怒りの感情』の対処法についてディスカッションした結果、多くの参加者が『怒りの感情』に対して嫌悪感を持つ傾向、自分の言動を後悔している傾向にあり、コミュニケーション能力向上のためにはAMによるトレーニングを継続したいという意見が寄せられた。

【考察】日本の教育課程における『怒りの感情』をコントロールする教育の歴史は浅い。今後も、AMを学び継続してトレーニングすることにより、医療・介護従事者の医療コミュニケーション能力が向上し、地域医療や在宅医療においても多職種連携がスムーズに行われ、より良い医療提供に有用な研修であると思われる。